柚木（ゆのき）議員 連日の国会質問で奮闘！

柚木みちよし衆議院議員は、11月8日に通算91回目となる国会質問に立ち、今国会で毎週のように国会質問に立ち、奮闘している。

田村厚労大臣に厳しく詰め寄る柚木議員

柚木議員は、化粧品で生じた肌の白斑問題や、石鹸で起こった、健康被害、降圧剤ディオバン問題対策を取り上げ、政府に早期の対応を求めた。

柚木議員の指摘に対して、政府は早速、関係機関に通知を発出、医薬品以外の化粧品や医薬部外品も健康被害などの副作用報告を国として迅速に収集し、被害防止や万が一被害発生した場合の迅速に対応することとなった。

『社会保障制度改革プログラム法案』
柚木議員「負担増先行！社会保障充実先送りだ」と追及!!!

厚生労働委員会で質問

「社会保障充実と負担の分かち合いはセットであるべき」と質す柚木議員

「民主党政権時よりも**1兆円**も社会保障充実分が削られている。消費税増税は、子や孫の世代にツケを残さないよう、国の借金1,000兆円の返済と、年金、医療、介護、子育て支援を充実を図るのが国の責務ではないのか？」と追及、また柚木議員は、「医療費窓口負担や保険料負担、介護サービス利用料負担、難病患者負担、年金の減額まで、まさに充実先送りの国民負担増先行オンパレードだ!!」と法案に異議を唱えた。

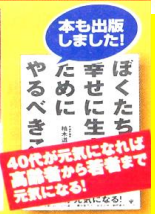
ゆのき柚木議員 通算91回
連日、国会で質問!!
是非、映像でご覧ください！
衆議院TV
http://www.shugiintv.go.jp/jp/index.php#library

民主党 PRESS MINSHU
柚木みちよし事務所
〒710-0833 倉敷市西中新田548
TEL 086-430-2355
FAX 086-430-2266
Eメール yunoki@yuzu.jp

ツイッター / フェイスブック配信中!!
ゆず日記更新中!
http://www.yuzu.jp

柚木みちよしの『超党派イクメンプロジェクト』

柚木は、お父さんの育児参加応援の超党派「イクメン議連」代表。自民党、公明党、維新の会、みんなの党と若手世代・超党派で取組中!共働きの妻と交代で託児所に2才の娘を送迎。ときどき義母に預かってもらいますが、近所に祖父母いず、認可保育園入れない家庭は大変です。自らもイクメンパパとして、子育て支援充実に奮闘中!



柚木みちよしの『ゆずれないチャレンジ!!』

サラリーマンの父親と看護師の母親の共働き家庭に育つ。10才年下の妹（現・小学校教師）、12才年下の弟（現・自衛官）を長男として世話をしながら、大学時代はアルバイトで学費・生活費を捻出。2002年、誰かががんばらにゃーおえん!と公募合格後、ジバン（地盤）・カバン（お金）・カンバン（七光り）ない中、元総理に挑戦。2003年総選挙6万6199票も落選、翌朝雨の街頭演説から再起を期す。2005年総選挙10万2370票で初当選、民主岡山初の議席。2009年総選挙13万4319票再選。2012年財務大臣政務官就任。2013年3期目の当選。

音楽・文化・スポーツの振興に尽力!

野球大会で始球式

ギター演奏&歌♪

1972（昭和47）年5月28日生まれ ●倉敷市立上成小、私立金光学園中・高卒業 ●1997年 岡山大学文学部哲学科心理学・社会心理学コース

衆議院議員 柚木みちよし提言 5つの社会保障改革ビジョン

新世研「新世代研究会」版

行き過ぎた新自由主義路線は、強者はより強者になる一方で、格差拡大による自殺者増大、雇用や教育格差、治安悪化や精神疾患など社会的コストの増大をもたらす。他方、やさしい社会志向の社会主義路線では社会保障充実が進む可能性があるが、財政膨張の結果、持続可能性に難が生じ、また悪平等や生産性低下などの懸念がある。

「強く、やさしい社会」

強くなければ、生きられない。優しくなければ生きる資格がない。とはレイモンド・チャンドラー小説の探偵フィリップ・マーロウのあまりに有名な科白だが、我々、新しい社会保障制度を確立し、世代間格差の是正を実現する研究会(新世研)が目指すべき社会保障像は、まさに強いだけでもなく、優しいだけでもない、**「強く、やさしい社会」**ではないだろうか。そのために、我々新世研は、今後以下の視点を踏まえ政策具体化及び具体化に向けた協議を進める。

1●世代間格差是正

年金制度改革は積立方式の理念に基づき、世代間格差是正と実現可能性、持続可能性各々の両立を可能とす設計を進める。

2●男女間格差是正

議員クォータ制導入で、国家経営者である国会議員の男女比を40~60%にし、女性力活用を推進し、男女いては国民の幸福度向上に寄与する。最新の世界経済フォーラムによる男女共同参画度・ジェンダーギャップは105位と先進国ワースト1位である。
このギャップ解消でGDPが60兆円・12%増加の試算もある。議員クォータ制導入による、子育て支援策の拡やイクメン政策などの新施策推進、また日本が国際比較で劣っている家族関係支出や就労支援支出の抜本的拡り、現役世代への支援へ一大転換を図る。

3●日本型医療・介護モデルの世界への発信

医療・介護分野の社会保障は財政の足かせ、との負の認識を改める。例えば、予防接種を含む予防医療・予の積極的推進により今後数兆円の財政改善の可能性、日本の医療介護制度のハードとソフトの輸出や国際医療どによる海外からのヒト・モノ・カネの流入、公的サービスと民間・NPOサービスとのベストミックスによるサービスや雇用創出、そしてips細胞はじめとする次世代型最新技術や介護ロボットなど日本発の技術提供など界に冠たる国民皆保険制度に次ぐ「21世紀日本型医療・介護モデル」を世界に発信する。

4●シルバーデモクラシーからニュー・ジェネレーション・デモクラシーへ

団塊世代と団塊ジュニアジュニアで世代間の受益と負担の格差が1億円とも言われている。我々新世研は、代間不均衡の大転換なくして日本の未来はない、との危機感をどの世代より強烈に認識し、そして行動する。他方で、シルバー世代をプラチナ世代と位置づけ、若者・女性・元気高齢者が未来の日本を切りひらく中で、齢者が活躍するあらゆる機会の拡大を強力に推し進める。

5●こどもの政治参画権を推進

4のニュー・ジェネレーション・デモクラシー推進の要は、現在投票権のないこどもたちの声をいかに政策せられるか、にかかっている。現在も国会で協議が行われているが、我々新世研は、全国こども国会の開催、論の政策反映、また、こどもの投票権確保などこれまでにない次元でこどもの政治参画権を推進する